（仮称）奈良県国際芸術家村における文化資源交流について

平成28年6月29日
奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

○　本県は、本年3月にACCUと協働連携協定を締結。ACCUとの連携による国際会議などMICEの誘致、国際的な人材養成研修の充実などを検討。
○　国際会議以外にも、学術会議、フォーラム、シンポジウムの開催、大学等のセミナーハウスとしての活用など文化資源関連のMICEを誘致。
○　あわせて、文化財の修復現場の公開など地域住民や来訪者が歴史文化資源と触れ合う学習・体験・研究の場の提供を行い、文化資源交流を推進。
○　このため、ACCU以外にも美術系大学等との連携を検討。

○ACCUとの連携による国際展開等

【ACCU奈良事務所の現行の取組】

◇国際交流による奈良での人材養成
アジア太平洋地域から研修生を受け入れ、保存・修復の知識・技術を習得
・集団研修－ 開催期間：1ヶ月程度　参加者数：約１６名
参加者数累計239名（35ヶ国）
・個人研修－ 開催期間：1ヶ月程度　参加者数：６名程度
参加者数累計63名（20ヶ国）

◇海外でのワークショップ
現地へ講師派遣し、実地での研修
開催期間：10日間程度　参加者累計143名

◇国際会議
年1回開催、専門家等による情報・意見交換　参加者数：約２０名

◇文化遺産国際セミナー
年1回、県民を対象に開催　参加者数：約３００名

◇世界遺産教室
県内高校１０校で開催
※奈良事務所職員数　８名

【（仮称）奈良県国際芸術家村における事業展開】

◇国際交流による奈良での人材養成の充実
◇海外でのワークショップの充実
◇国際会議の充実
◇文化資源の多言語による情報発信

＜国際会議以外の文化資源関連ＭＩＣＥの誘致＞

◇学術会議、フォーラム、シンポジウム等
◇大学等のセミナーハウスとしての活用

＜歴史文化資源と触れ合う機会提供＞

◇世界遺産教室のシニア向けの開催など生涯学習の機会の拡充
など教育面のソフト事業を充実
◇修復現場の公開、発掘体験等

＜管理・運営等＞

○学習・体験・研究の拠点としての展開（例）

○学習・体験

- 県内の小中学生への郷土教育、県外修学旅行生に対する学習
- 美術系大学生等に対する研修
  - ・大学等で学芸員資格を取得する際に必要な実習の受入
  - ・歴史文化資源を活用したセミナー　等
- アクティブシニア等の生涯学習
  - ・歴史文化資源に親しむことができる講座
  - ・学芸員資格取得のための講座　等
- 国宝模型、勾玉、埴輪等の製作体験
- 古墳等発掘の体験　等

○研究

- 記紀・万葉関連の資料室の設置
  （文献資料等の整備、関連情報の他機関とのネットワーク化）
- 文化資源活用課翻刻作業部門（現在は図書情報館）の移転の検討　等

【参考】奈良県で古美術研究を実施している大学の現状（聞き取り）

大学名	分野	県内施設の有無	現状					
			訪問頻度	訪問場所	年間来訪者数	宿泊数	時期	学生の訪問内容
東京藝術大学（東京都台東区）	美術（実技）	○（定員48名）	毎年	近畿圏	昨年は2,767名（延べ人数）	2週間滞在	通年	必須科目の「古美術研究旅行」などで来県
武蔵野芸術大学（東京都小平市）	美術（実技）	○（定員35名）	毎年	近畿圏	400～420名（延べ人数）	3泊4日	通年	必須科目の「古美術研究旅行」などで来県
多摩美術大学（東京都世田谷区 八王子市）	美術（実技）	○（定員37名）	毎年	奈良	一回につき数名～40名	1泊2日～2泊3日	通年	美術（実技）の授業の一環として来県
東京造形大学（東京都八王子市）	美術（実技）	－	毎年	京都・奈良	例年20名（延べ人数）	3泊4日	冬	選択科目の「古美術研究旅行」で来県
女子美術大学（神奈川県相模原市）（東京都杉並区）	美術（実技）美術史	－	毎年	京都・奈良 福井	昨年は60名（延べ人数）	6泊7日 うち奈良3日間	複数回	必須科目の「古美術研究旅行」で来県
文星芸術大学（栃木県宇都宮市）	美術（実技）	－	2年に1度	奈良・京都	昨年は10～20名（延べ人数）	2泊3日～3泊4日	9月中旬	選択科目の「古美術研究旅行」で来県
実践女子大学（東京都日野市、渋谷区）	美術史	－	毎年	京都・奈良	30名（延べ人数）	2泊3日	7月	必須科目の「美術史実地研究」で来県
早稲田大学（東京都新宿区）	美術史	－	毎年	奈良	例年50～70名（延べ人数）	4泊5日	6月初旬	美術史コース学生全員が来県
日本大学（東京都練馬区）	美術（実技）	－	毎年	京都・奈良	昨年は23名（延べ人数）	3泊4日	9月中旬	必須科目の「古美術研究」で来県

（仮称）奈良県国際芸術家村における官民協働、地域間連携、政策間連携について

○　（仮称）国際芸術家村において、官民協働、地域間連携、政策間連携を図りながら、今後の管理・運営等のあり方を検討するため、行政、教育機関、地元自治会、観光・農業・伝統産業・国際関係の団体、金融機関など関係者による協議体（企画協議会）を本年3月に設置。

○　観光、産業、まちづくり、福祉など幅広い分野への波及を視野に入れ、関係者で議論を深めながら、収支バランスのとれた整備・運営体系の確立を目指し、平成28年度は管理・運営主体等の調査検討を実施。

奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

（仮称）奈良県国際芸術家村企画協議会

（仮称）国際芸術家村の管理・運営や今後の展開等について議論するため、各分野の関係者を構成員とする実務的な協議体を設置し、第１回会議を開催。

＜構成団体＞

- ・奈良県　→　地域振興部長
- ・天理市　→　副市長
- ・金融機関　→　南都銀行、奈良中央信用金庫、奈良信用金庫、大和信用金庫
- ・観光関係　→　（一財）奈良県ビジターズビューロー、天理市観光協会
- ・農業関係　→　ＪＡならけん
- ・伝統産業　→　奈良県産業共励会、奈良県工芸協会
- ・国際交流関係　→　ＡＣＣＵ文化遺産保護協力事務所
- ・地元関係　→　天理市区長連合会、天理大学、天理市商工会

※DMO（Destination Management Organization：様々な地域資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、ウェブ・SNS等を活用した情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定等について、地域が主体となって行う観光地域づくりの推進主体

検討

（仮称）奈良県国際芸術家村における運営等のイメージ

○　文化施設（セミナー、講座室、長期滞在施設）等の管理運営
○　内外の文化資源交流（国際会議、生涯学習等）の拡大
○　人材育成、女性支援（翻訳、翻刻作業部門の移転）

運営：文化系の団体等を想定

○「文化財修復の拠点」
文化財保存事務所の移転、選定保存技術保存団体等を誘致

※（公財）ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）との協力連携協定を平成28年3月に締結

○　ACCU、地元大学、資料館などと連携

○　ホテル、付属レストランの管理運営

運営：民設民営を想定

○　道の駅、駐車場、サイクルステーション、観光案内所の管理運営
○　各施設全体の総括、情報発信・PR
○　文化資源を活用した着地型観光商品の造成
（文化財修復現場の公開、発掘体験等官民連携ツアーなど）

運営：DMO等を想定

○　農産物直売所、加工所、農家レストランの管理運営

運営：農業団体等を想定

○　伝統工芸品展示・即売・制作体験施設の管理運営

運営：産業団体等を想定

（仮称）奈良県国際芸術家村における伝統工芸の展開について

平成28年6月29日
奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

課題とこれまでの施策展開

伝統工芸の主な課題

●需要の低迷
少子高齢化による人口の減少、生活様式や生活空間の変化、大量生産による安価な生活用品の普及、輸入品の増加等
●人材、後継者の不足
若年層の間の「就労意識の変化」や「将来への不安」、職人の高齢化
●産地の知名度の不足
一部ブランドを除き、伝統工芸品の知名度は必ずしも高くない。

伝統工芸品

●国指定　経済産業大臣伝統的工芸品　2品
高山茶筌、奈良筆
●奈良県指定　奈良県伝統的工芸品　17品
赤膚焼、大塔坪杓子・栗木細工、
奈良団扇、木製灯籠、くろたき水組木工品、
三方、吉野杉桶・樽、吉野手漉き和紙、
鹿角細工、奈良晒、大和指物、笠間藍染、
神酒口、大和出雲人形、
東吉野杉・檜木工品、高山茶道具、
神具・神棚
●その他工芸品

これまでの本県での伝統工芸施策

若手職人人材育成・普及

若手職人による展示販売会
内容：伝統工芸に携わる若手職人に対し、時代感覚をつかみ、新たな展開を図れるよう、若手職人主催による展示会を支援（H27年度は、H28.2.15、16　奈良ホテルで開催）

小学生伝統工芸体験
内容：伝統工芸への理解を深めるため、小学校の授業の一環で行う、伝統工芸士らによる講義・製作体験（H27年度は、H27.7月～墨、筆、団扇、手漉き和紙、赤膚焼　10校　525名体験）

伝統工芸体験
内容：伝統工芸士らの指導による、一般の参加者を対象とした、製作体験。
（H27年度は、H27.7.28～30
産業振興総合センター
イベントホールで開催。
奈良団扇、高山茶道具、
赤膚焼　110名体験）

ＰＲ冊子、ホームページの制作
「伝統工芸なら」
内容：国・県指定伝統的工芸品、奈良を代表する伝統工芸品を紹介する他、体験工房等の紹介。

国際芸術家村での展開

伝統工芸の振興を目指す場とし、新たな挑戦、若手職人等の活動の支援、伝統工芸に関する情報発信を行う。奈良の魅力を感じていただき、地域の活性化を目指す。

「伝統工芸」普及・体験

○伝統工芸を主とした、様々な体験型のワークショップを通し、奈良の伝統工芸への関心を高めてもらう
○若手職人を中心とした展開などにより、後継者育成を図るとともに、新たな後継者の確保を目指す。

イメージ

高山茶筌のお茶会

イメージ

奈良団扇の製作体験

今後の検討事項
○関係機関との協議・調整
○展示、販売、ソフト事業の運営方法の検討（コーディネーターの確保等）

「伝統工芸」展示・販売機能

○伝統工芸を主とした、様々な企画展示
○本展示場での企画展示に合わせた、伝統工芸の新たな創作活動による、伝統工芸の活性化
○展示会（例）
「豊かで美しいライフスタイルを彩るアイテム」
奈良晒し、吉野手漉き和紙等
「器の魅力」赤膚焼

○トークショー
伝統工芸士らによるレクチャー

○ショップ
本県の伝統工芸を、現代の時代感覚に合わせ編集した売り場とする。

芸術家村までのプロセス

伝統工芸品の需要を増やしつつ、時代ニーズへの対応、 後継者育成を進めることで、伝統工芸品を産業として成り立つことを目指す
国際芸術家村での展開を見据え、今後以下の取組を実施することについて検討

新たな工芸デザイン開発・販路開拓、展示会開催等事業

時代ニーズへの対応、新商品開発、新販路開拓

伝統工芸が現代の価値観やニーズに合い、改めて評価されている展開も多い。
首都圏ギャラリーの視察、芸大やデザイナーなどとの連携による新たなデザインの開発、展示会などでの新たな販路開拓などの取組に対して支援。
○支援内容
・新商品開発
・パッケージ（包装）の改良
・商談会、見本市への出展
・ギャラリー等改装
・ネット販売システムの構築等

有田焼KIHARA×シンガポール

奈良の上質な伝統工芸に触れる展示会支援

例えば、赤膚焼については、江戸末期から明治初頭に活躍した陶芸家　赤膚焼の中興の祖と呼ばれる名工「奥田木白」の古赤膚焼があり、コレクションを行っている人による展示会が開催されている。
こういった動きが加速化するよう支援する。
↓
○芸術家村での展示会の足掛かりとなる

プロモーション活動

他部局との連携による普及啓発

大量生産・消費の時代から、丁寧につくられたものの良さに関心が高まる中、奈良の工芸品の普及啓発を観光、農林などの他部局と連携して行う。
○普及啓発活動
・イベント開催
・イメージHP作成
・雑誌等への企画の持ち込み
・連携会議の開催

時代感覚のある雑誌への掲載

郷土教育

小学生伝統工芸体験の拡充

伝統工芸品の普及啓発に加え、郷土教育の一環として小学生を対象として、伝統工芸の講義・体験の拡充を検討

手漉き和紙

（仮称）奈良県国際芸術家村における農村交流施設の整備について

平成28年6月29日
奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

○　（仮称）奈良県国際芸術家村に、農村交流施設（農産物直売所、農産物加工施設、農家レストラン）を設けることで賑わいを創出し、6次産業化等による地域農業の振興を図る。

○　平成28年度は、「農」と「食」の魅力を活用した賑わいを創出するためのハード・ソフト一体的な取り組みを進めるため、天理市等と連絡会議を開催し調整するとともに、委託業務により農村交流施設の運営方法等の検討を行い、整備構想 を策定していく。

農産物直売所

○新鮮野菜や地域特産品の販売による地域の活性化

○少量多品目販売など、新たな販路開拓による地域農業の振興

「地の味土の香」協定直売所のイメージ
あすか夢の楽市（明日香村農林産物等販売所）

農産物加工施設

○農業の6次産業化（生産・加工・販売）による地域の活性化

○地元産品を利用した手作り加工品による所得向上と雇用創出

「地の味土の香」協定直売所における共通販売商品の一例

地の味土の香「當麻の家」
農産物加工施設の様子

農家レストラン

○四季折々の新鮮な地域食材の活用による地域の活性化

○美味しい「食」の創造と発信による賑わいづくり

農家レストランのイメージ（奈良市(「清澄の里 粟」)

国際芸術家村での展開を見据え、「農」と「食」の魅力を活用した賑わいの創出(ソフト事業)を検討

＋ ← **農村交流施設にイベント・体験スペース確保の検討**

新たな特産品開発

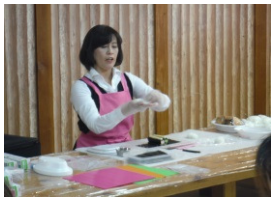
(地元産のトマトを利用したジャムの例)

イベント開催

（都市農村交流イベントの例）

伝統食品加工講習　・　郷土料理教室

（柿の葉寿司の手作り体験の例）



（かんぴょうの料理教室の例）

農村の魅力情報発信

（山の辺の道周辺の柿の木オーナーの例）

文化・芸術の拠点（（仮称）奈良県国際芸術家村）における天理市の施策展開について

平成28年6月29日
奈良県国際芸術家村構想等検討委員会

○天理市がもつ様々な歴史文化・地域資源を活用し、文化・芸術等のイベント等の実施や周遊観光を促進することにより、文化・芸術に接する機会の拡充、交流人口の拡大、地域の活性化、地元産業の振興等を目指す。特に、（仮称）奈良県国際芸術家村を天理市の古墳関連文化の拠点として位置づけ、出土品の展示・修復現場の公開・開設、セミナー開催等の検討を行うとともに、その拠点施設として天理市文化財課（埋蔵文化財センター）の移転を検討する。

国際芸術家村における展開（県）

○歴史文化資源の修復・活用の拠点
- 文化財修復、修復現場公開
- 古文書等の文献資料の翻刻・情報発信
- 文化財修復技術の伝承、翻刻者・翻訳者の養成
- 多言語化など

○文化資源交流の拠点
- 国際会議、国際交流による人材養成研修
- 学術会議、フォーラム、シンポジウム
- 大学等のセミナーハウス
- 修復現場の公開など地域住民や来訪者が直接歴史文化資源に触れ合う機会の提供
- シニアセミナー、体験教室など

○観光・産業・まちづくりなどと政策連携し、地域の賑わいと交流への波及効果を高める拠点
- 周辺への周遊を含む着地型観光
- 地元農産品の販売・加工、レストラン、伝統工芸品の展示・即売・製作体験等

○県民や来訪者が上質な文化芸術に触れ合うことができる拠点
- 質の高い文化芸術イベント

平成28年3月18日開催
奈良県国際芸術家村構想等検討委員会資料より

天理市の戦略

天理ならではの魅力を活かし新しい人の流れをつくる

○豊かな地域資源を活かして交流を呼び込み、地域に活力を呼び込む

○多様なライフスタイルの提案・シティプロモーション等により、天理に住む豊かさをPRし新たな住民や人材を引きつける

○交流人口がもたらす経済効果により地域に好循環を生み出し、定住人口の増加につなげる

天理市の展開

○古墳関連文化の拠点
- 市文化財課（埋蔵文化財センター）移転、出土品の常設展示
- 修復作業公開、修復体験
- 関連セミナー等の開催など

○文化資源交流の拠点
- 古墳、山の辺の道関連フォーラムの開催
- 映画祭の誘致
- 学校教育との連携など
- 天理大学（図書館・参考館）との連携など

○地域のにぎわい拠点
- 地元産品のマルシェ、レストラン
- 周遊観光、サイクルツアー誘致など

○駅前再開発事業との連動
- 地域公共交通との連携
- 「芸術通り」構想の検討
- 芸術フェスタの開催
- レンタサイクル事業の検討など

○アーティスト・イン・レジデンス
- 芸術振興、地域おこし、教育、福祉連携
- プレ事業の実施検討など

○CCRCの検討
- 芸術家村連携型CCRCの検討
- シニア向けアクティビィティの開発など